

学校だより

横浜市立都岡小学校



せんだん

1月号

令和6年1月9日

恭賀新年

毎日未来へ一歩ずつ

校長 藤本 萌

令和6年、新年の幕開けは大きな災害と事故のニュースが飛び込んできて始まりました。災害はいつやってくるかわからないものであると理解はしていますが、「なぜ元日に…」という思いは禁じえません。本当に心が痛みます。あらためまして被害に遭われたすべての皆様、関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、子ども達はどんな冬休みを過ごしたでしょう。日頃よりも家で過ごす時間が長くなる年末年始、ゲーム機やタブレット端末などを使う時間も長くなったのではないのでしょうか。かくいう自分も、家事の合間に動画を見たり、情報を検索したり、ゲームに興じたり、買い物をしたり…便利で楽しい時代になったものだなとつくづく思いました。今や、ICT 機器は特別なものではなく、生活の中に普通に溶け込んで、子どもでも大人でも気軽に使うことができる身近な道具です。学校でタブレット端末を使いこなしている子どもたちにとっては、もはや学習にも、創作にも、友達との交流にも、自分を表現することにも、欠かせない存在です。

例えば学校では、インターネットを使って調べたり、動画を視聴したりすることはもちろん、作文の下書きや写真やイラスト、音声を入りの学習カードの作成をすることもあります。さらに、係活動で作ったクイズや動画をテレビに映しながらみんなで楽しんだり、算数の考察を画面上のカードに書いて提出し、他の人の書いたカードと見比べながら全体で話し合いをしたり、体育の運動を録画してフォームの確認や試合の作戦を練ったりすることにも活用しています。プログラミングのアプリを使って、自分でゲームを作り、休み時間に講習会を開いたりしている子もいます。校内放送の代わりに全校をオンラインでつなぎ、画面を共有することもできます。英語の聞き取り、プレゼンテーションの練習、デジタルドリルでの自学自習…数え上げればきりがありませんが、これからも学校では、この「学習用具」としてのICT 機器の可能性を広げていきます。と同時に、言うまでもなく、使う上でのモラルやマナー、リテラシーの教育も重ねてまいります。

今や、科学や技術の進歩は、たった1年間でも驚くほど進んでいきます。情報は常に新しく、子どもも常に成長しています。追い付けない、などと言っている場合にはありません。昨年話題になった生成系 AI が教育活動に欠かせないものとなる日が来るのもそう遠くない未来でしょう。時代が引き返すことはありません。

クリスマスプレゼント、お年玉、中学進学のお祝い等、子ども達がもし新しい機器を手にする機会がありましたら、その喜びを一緒に分かち合い共感してあげることも大切です。そのうえで、大人の言葉がけが大きな影響を及ぼすこの小学生の時代にこそ、保護者からお子さんに正しい機器との付き合い方、情報とのかかわり方を、アドバイスしてあげて欲しいと思います。

「恐れず、正しく、自分の頭でしっかり考えて」未来に向かって毎日一歩一歩進んでいく、そんな令和6年でありますように。今年も都岡小学校をどうぞよろしく願いいたします。